

令和二年度入学者選抜試験問題 国語

注意 1 解答は、答案用紙の指定欄に記入しなさい。

2 開始の指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。

3 この問題冊子は、9ページまであります。問題冊子・答案用紙の印刷の不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

4 この問題冊子は、試験終了後持ち帰ってください。

— 次の文章を読んで、あととの間に答えなさい。

二〇〇八年以降、急速に普及したスマートフォンの是非を問う議論で頻繁に登場するのが、「強迫観念」というモチーフだ。現代のネットスラングにFOMOという言葉が存在するが、これはFear of Missing Out「なにか大事なことを見逃していないのか」という恐怖の感覚を指している。一人でいる時でも、誰かといふ時でも、スマートフォンのメッセージの通知音が鳴るたびに、まるで脊髄反射のように画面を覗いてしまう、あの感覚だ。これが多くの人々に多大なストレスを強いていることは疑いようのないことだが、別の観点から見てみれば、スマートフォンからアクセスするSNSの方が、^①物理的に近接した相手との会話よりも、社会的圧力の強い共在の感覚を生んでいるのだと言えるかも知れない。

目の前にいる親しい間柄の人間よりも、ネット越しの知人にこそ礼儀も注意も払おうとするはある意味、当然の社会的な反応だと言える。スマートフォンの通知が届く限りにおいては、わたしたちは四六時中、知り合いに囲まれながら生活しているのだ。ボンガンドの人々にとっては約一五〇メートルの範囲が日常的な共在感覚の境界だと考えれば、わたしたちは場合によつては地球全体にまでその範囲を拡張して生活している、とも考えられるのではないか。

ハハ一〇年ほどのスマートフォンのシントウ^aでわかつたのは、眼前の人間とは物理的に社会空間を共有しているが、オンライン上の知人ともまた実質的には社会的に作動する空間を共有しながら、生活できるということだ。^②この技術的な特性は、その過剰によって多くの社会問題を生み出しているわけだが、適切な設計に基づけば、過剰を回避し、より良いかたちで遠隔の人々と共に感覚を結ぶこともできる。そのためには、必ずしもインターネットを介する必要はない。

子どもができる数年前、モンゴルの草原に住む遊牧民の居住地に妻と一週間ほど滞在した時に、「個であること」や「私有すること」の感覚を強く揺さぶられる体験をした。

わたしたちは、首都ウランバートルから西に数百キロ走った大草原のただなかに設営された遊牧民のキャンプを訪れ、現地で野生馬を捕まえて牧場を営んでいる男性から毎朝馬を借りて、一日中草原を自由気ままに走り回るという日々を過ごしていた。

どこを見渡してもなだらかなキユウリヨウと草原しかない世界のなかで、ガイドに従つてその時々で行き先を決めながら彷徨つて**b**いる。時折別の集落を見つけることがあつた。そういう時には決まって、われら日本からの珍客を自分たちのゲル（遊牧民の住む円形の移動式住居）の中にこころよく招き入れて、手作りの馬乳酒やウルム（遊牧民が造るバターのような食べ物）をふるまい、大いにもてなしてくれた。

モンゴルの遊牧民の氣前^cのよさは、気候の変化を追いながら、季節ごとに居住地を移り渡る遊牧民の生活のなかで出会う、見知らぬ他者とつつがなくコウエキをおこなうために獲得した知恵なのだろう。頭ではそう分かっても、近隣の住民とでさえ交流が薄い東京のような都会の感覚からすると、この自然な氣前の良さはやはり尋常ではない。

そうして何日かを過ごしているうちに、滞在先の居住地を離れる日がやつてきた。その朝、わたしたちは毎日馬を借りていた牧場の主にお礼の挨拶に向かったところ、やつてほしいことがある、とお願いをされた。馬とは別に飼っている牛たちを運動させたいので、馬に乗つて牛追いをしてきてほしい、という。午後の出発まで時間があつたので、小一時間ほど牛たちを追いかけてから、牧場に戻ると、渡したいものがあるからついてきなさい、と言われた。

つかつかと牧場の中に入つていく主についていくと、一頭の白い馬の前で立ち止まり、いきなり、この馬を君たちにあげよう、と言う。一瞬何を言われたのか理解ができず、慌てるように「大変ありがたいのだけど、これから日本に帰るので連れていけません」と答えると、そんなことはわかっている、と笑われてしまった。この馬をあげる、というのは、持つて帰れ、という意味ではない。君たちが再びここを訪れる時には、君たちが自由に乗つていい。それまで、この馬を手放さずに面倒を見るから、と。この牧場主は、いつまたモンゴルに戻つてくるかも定かではないわたしたち夫婦のために、大事な商売道具である馬を一頭確保し続けてくれるというのだ。わたしたちはそれまで、このようなかたちの「贈与」に触れたことは一切なかつたので、夫婦でギョウテン**d**してしまつた。

それは、持ち帰れる手土産を渡すこととは質的に異なる贈与であった。物質的な財産は、それを誰かに手渡した瞬間、その所有者が相手に切り替わり、そこで贈与という行為は完了する。他方で、この人が提案してくれたことは、自ら馬の飼育の負荷を

負いながら、彼らが生きている限り、そしてわたしたちがそのことを記憶し続ける限り、継続される種類の贈与だ。馬の使用权、などと書くといかにも野暮つたが、遊牧民にとつては主な移動手段でもあり、貴重な栄養源でもある馬はことさら特別な価値を持つ。だから、それは権利の貸与や契約などという形式張ったものではなく、なによりも友愛の念を示すための贈り物だった。彼の侠気に深く感じ入りつつも、同時に自分が普段住んでいる世界における「所有」や「共有」の定義がなんと狭く、貧しいものであるかを痛感させられ、少しはずかしくも感じた。

その時からもう八年以上が経過してしまったが、ことあるごとに——モンゴル人力士のニュースを見たり、馬を見たり、あるいは元帝国に関するブンケンを読む度に——草原で出会った彼らのことを思い出す。いまも元気に過ごしているだろうか。あの白馬ももうすっかり老馬になっているだろう。いつまた会いに訪れられるだろうか。彼の人に提供された贈り物は、かくも遠い距離と長い時間を超え、今に至つて持続する接続線をわたしのなかに根付かせたのだった。⁽⁴⁾これもまた、共在感覚の一種ではないだろうか。

(ドミニク・チェン「未来を思い出すために」による)

注 ボンガンドー アフリカのコンゴ民主共和国に住む農耕民族で、原文では問題文の範囲より前で紹介されている。

- 問1 傍線部 aからeまでのカタカナを漢字に直しなさい。
- 問2 傍線部①「物理的に近接した相手との会話よりも、社会的圧力の強い共在の感覺を生んでいるのだとも言えるかもしけない」とありますが、どういうことですか。「強迫観念」という言葉を入れて説明しなさい。
- 問3 傍線部②「この技術的な特性」とはどのような特性ですか。「インターネット」という言葉を入れて説明しなさい。
- 問4 傍線部③「少しほばかしくも感じた」のはなぜですか。前段落にある「質的に異なる贈与」という言葉が何を言っているかを明らかにしながら説明しなさい。
- 問5 傍線部④「これもまた、共在感覺の一種ではないだろうか」とありますが、どういうことですか。本文全体の趣旨を踏まえて説明しなさい。

— 次の文章は、烏と鷺を擬人化した御伽草子の一節です。烏の真玄は、鷺の正素の娘に宛てた恋文の使者が鷺家の者に散々に侮辱されたことから、鷺家と合戦をしようとしており、烏家では軍議が開かれている場面です。これを読んで、あとの間に答えてなさい。

① 詮議まちまちにして一定せず。或は「破れかぶれ、手勢にて押し寄せて天罰、火にも水にもなれ」と言ふ。或は「今日を待ちて当國の勢をもよほして、うち明かしに寄せん」と言ふ。又、近頃異見には「当時は無為を先とする時分なり。雅意に任せたる合戦、理を持ちながら負ぐることや侍らん。上裁を経るか、しからずは敵方大望もあらば小家の一軒にも煙を立てさせてやむべき」など言ふ。

ここにある者、「幸ひに聞なり。まづ烏羽玉の夜討ちをせん」と言ひ侍りける所に、ある烏の曰く、「夜の黒きことの枕詞に烏羽玉といふ、何事なるらん。烏羽はしかり、玉は心得がたし」と言へば、又ある烏の曰く、「それ烏羽玉といふことは、秦の始皇に三つの宝あり。渡角、玉鉢、烏羽玉なり。渡角は屋の角なり。これを持ちて川、海を渡るに、水双方へ三丈ばかり退く。玉鉢は始皇の外戚先祖、竜宮よりこれを伝ふ。この鉢の奇特は先を主に向けず。また玉鉢の道などといふにつけて様々の徳ありて申すことこれ多し。烏羽玉は異国より五尺の鳥飛びきたるに二つの翼の間に黒き玉あり。これより差す光、黒くして世間暗くなりにけり。始皇の將軍に湛忠といふ者あり。大きな家を作りてかの中に種々の食物を置き、烏これを食はんとて家の中に入れる時、袋を家の口に貼り百の松明をもて、内より鳥を追ひ出し袋に込め、かの玉を奪ひ取り、鳥をば殺しぬ。この玉、箱にある時は世間明かく箱を出せば暗し。始皇、秦の武王と軍を起こし負けんとせし時、この玉を出すにたちまちに暗くなりて逃げのがる。これより黒きことにも夜にも烏羽玉と申すなり」と言へば、面々唾を吐きて「これほど取り乱したる席において、さのみ物知らずどもありなん。先途の評定をば傍へなして雑談は何事ぞ。軍の事始めにあな不吉や」とぞ言ひ合ひける。

(『鴉鷺物語』による)

問10 傍線部⑤に「これより差す光、黒くして世間暗くなりにけり」、傍線部⑥に「この玉、箱にある時は世間明かく箱を出せば暗し」とあります。が、これをふまえ「鳥羽玉」が三宝の一つと言われる理由を説明しなさい。

問11 傍線部⑨に「あな不吉や」とありますが、それはなぜですか。鳥羽玉の由来にふれながら説明しなさい。

注 詮議—合戦についての評議 天罰—天罰を受けてもよい。決意を固めた時に発することば 火にも水にも—危険を顧みないこと もよほして—招集して うち明かし—夜明け 近頃弱異見—今どきの軟弱な発言 当時—最近

無為—平稳 雅意—恋の使者を送るという雅な気持ちから始まつた争いであること 上裁—上位の者による裁決
大望—合戦をしようという意向 始皇—始皇帝 先途—分かれ目となる大事な時

問6 傍線部②「侍らん」の「ん」、傍線部⑦「負けんとせし時」の「し」を文法的に説明しなさい。

問7 傍線部③に「夜の黒きことの枕詞」とありますが、「鳥羽玉」は「ねばたま」ともいう「夜・黒」の枕詞です。次の和歌から枕詞を全て抜き出しなさい。

ひさかたの光のどけき春の日にして心なく花の散るらむ
いにしへの奈良のみやこの八重桜けふ九重ににほひぬるかな
天つ風雲の通り路吹き閉ぢよ乙女の姿しばし止めむ
ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは

問8 傍線部④「何事なるらん」、傍線部⑧「傍へなして」を現代語に直しなさい。

問9 傍線部①に「詮議まちまちにして一定せず」とありますが、これはどのような状況ですか。同じ段落の中から異なる三つの意見を要約して説明しなさい。

三 次の文章を読んで、あとの間に答えなさい。なお、設問の関係で、返り点・送り仮名を省略した部分があります。

鄭子產有疾。謂二子大叔曰、我死子必為政。唯有德者能以
寬服民。其次莫如猛。夫火烈。民望而畏之。故鮮死焉。水
懦弱民狎而狃之。則多死焉。故X難疾數月而卒。大
叔為政不忍猛而寬。鄭國多盜。取二人於萑苻之沢。大叔悔之。
曰、吾早從夫子不及此。興徒兵以攻萑苻之盜、尽殺之。盜
少止。仲尼曰、善哉。政寬則民慢。慢則糾之。以Y猛則民
殘。殘則施之。以寬。寬以濟猛。猛以濟寬。Z是以和。
(春秋左氏伝昭公二十年による)

注 子產—春秋時代の鄭国の宰相
子大叔—春秋時代の鄭国の宰相で、子產の後を継いで宰相となつた。本文中では「大
叔」とも称される。 寛—優しい、寛大である。 猛—厳しい、厳格である。 懦弱—弱々しい、柔弱
などる、軽んじる。 取—ここでは、人を脅かして物を奪い取ること 蘦苻—地名。今の河南省中牟県の北東

問12 傍線部①「能」、②「鮮」の読みを送り仮名も含めてすべて平仮名で記しなさい。

問13 傍線部A「莫如猛」を書き下し文にし、現代語に訳しなさい。

問14 傍線部B「吾早從夫子、不及此」を「夫子」が誰を指すか、また「此」が何を意味するかの二点を明らかにしながら、現代語に訳しなさい。

問15 傍線部Cは「徒兵を興して以て萑苻の盜を攻め、尽く之を殺す」と書き下します。それに従つて返り点と送り仮名を加えて下さい。

猛

子

盜

政

寬

令和二年度入学者選抜試験答案用紙 国語その一

問 5	問 4	問 3	問 2	問 1
				d a
				e b
				c

受 驗 番 号

小 計 1

令和二年度入学者選抜試験答案用紙 国語その二

問 16	問 15	問 14	問 13	問 12
X	興徒兵以攻萑苻之盜、尽殺之。		現代語訳	書き下し文
Y				①
Z				②

三

問 11	問 10	問 9	問 8	問 7	問 6
			④		②
			⑧		⑦

二

受 驗 番 号

小 計 3

小 計 2